

川崎市長賞作品

「夢へのとびら～飼育員を目指して～」

長沢小学校 6年 放生 真旺

ゴマフアザラシ・^{ききやく}鰭脚目アザラシ科、アメリカアカリス・^{げっし}齧歯目リス科、アミメキリン・^{ぐうてい}偶蹄目キリン科。
「どうしてこんなに難しい字を使うのかな。」

私は動物が大好きです。だから、よく、動物園に行きます。そこで必ず、その動物についての説明が書かれている部分をカメラでとり、家でもう一度見たり、ノートにまとめたりしています。難しい漢字や、意味の分からない所は、お父さんやお母さんに聞いたり、自分で調べたりしています。この作業は大変だけど、とても楽しいです。なぜなら、私は将来、動物園の飼育員になりたいという夢があるからです。この夢をかなえるために、少しでも動物にくわしくなろうとがんばっています。

私が飼育員になろうと思ったきっかけは、二つあります。一つは、小さいころから動物園に行っていたこと、もう一つは、家に猫がいたことです。

私が二才位のころ、お母さんのおなかの中には妹がいました。お母さんは、切迫早産という病気で動けなくて、一緒に遊ぶことも、出かけることもできませんでした。そこで、休みの日は、お父さんがよく動物園に連れて行ってくれました。その動物園にはふれ合いコーナーがあり、ひよこ、にわとり、モルモット、ねずみなどがいました。どの動物も、さわると温かく、ふわふわしていて、気持ち良さそうにしていました。お母さんと遊べなかったのはさみしかったけれど、動物たちとふれ合って楽しかったのは、今でも覚えています。動物たちが、私と遊んでくれたからです。

また、家には猫がいました。初めのうちは、近づくといかづばかりして、私のことを怖がっていました。それは、さわり方が少し強かったり、ドタバタと足音を立てて動いていたからではないのかと思います。でも、愛情をもってやさしくなったり、なるべく静かに動いたりしていると、だんだんなついてきました。今では、一緒にねるほど仲良しです。このように私は、小さいころから動物とふれ合う機会がたくさんあり、動物が大好きでした。

この前私は、幸区にある「夢見ヶ崎動物公園」に遊びに行きました。その日は、キーパーズトークという飼育員さんの話を直接聞ける、というイベントがある日でした。飼育員さんの話で、レッサーパンダは暑さにも寒さにも弱く、クーラーや暖房で温度調節をするということを知って、おどろきました。マーコールのおりの中を見ると、岩山がありました。それは、マーコールが岩山で暮らしているからです。このようなことを知って、動物園では、飼育員さんが動物のことを考えてたくさんの工夫や努力をしていることが分かりました。

しかし、おりはさびている部分があったり、せまく感じたり、本来群れで生活する動物が数匹でいたりして、動物にとって幸せなかん境といえるのか疑問になりました。「動物園は、本当に必要なのかな。大自然の中で自由に走り回って生活していたほうが、幸せではないのかな。」そう思うと、私のなりたい飼育員は、動物をとじこめてかん視する悪者に見えてきました。

しかし、調べてみると、動物園が何のためにあるのかが分かってきました。それは、希少動物の保護やはん殖、野生動物の保護です。また、子供たちが命の尊さを知る場所でもありました。動物園は、動物をただ見る場所だけでなく、動物の保護や子供たちが学ぶ場でもあったのです。

私は、希少動物の保護などに関わることができて、自分がお世話をしている動物を見てお客さんが喜んでくれる、というのが飼育員の魅力だと思います。希少動物の保護に関わるということは、動物が地球から絶滅しない様にお手伝いをしているということだし、お客さんが喜んでくれたら、自分が飼育員であることにほこりをもてるし、自信にもつながるからです。

私は、動物にくわしい飼育員になりたいです。少しでも自然に近い状態でお客さんに見てもらいたいからです。また、動物たちにストレスなく生活してもらうために住むかん境を考えて暮らしやすい場所を作っていきたいです。それから、衛生面に気をつけられて、健康管理もしっかりできるようになりたいです。そして、愛情をもって接することが一番大切だと思います。「愛」があれば、お世話をしている動物たちと、きっと心が通じ合うと思います。私と猫が通じ合ったように。私の夢へのとびらは、まだ開いたばかり。理想の飼育員を目指して、これからも勉強をがんばりたいです。